

授業科目名	持続可能な開発のための教育 (ESD)	単位数	2単位
担当教員名	浅見奈緒子	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる (専門知)</p> <p>DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる (実践力)</p>			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 持続可能な開発のための教育 (ESD) とは何か説明できるようになる。</p> <p>(2) 国連総会が採択した世界の 2030 年までの目標：持続可能な開発目標 (SDGs) について、説明できるようになる。</p> <p>(3) 持続可能な開発のための教育 (ESD) が環境、貧困や開発、人権、平和、ジェンダーなどの諸問題と複雑に関わり合っていることについて例を挙げて説明できるようになる。</p> <p>(4) 地域の問題・課題等を分析し対策を考える際に、SDGs をツールとして使えるようになる。</p> <p>(5) 持続可能な開発のための教育 (ESD) が、現代の日本・世界においてなぜ必要なのか、誰にとって必要なのか、具体的に説明できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>持続可能な開発のための教育 (ESD) とは何か、歴史的背景などを理解する。また、現代の日本・世界において、持続可能な開発のための教育 (ESD) がなぜ必要なのか、誰に必要なのかという問いに対して、具体的な事例から学び、自らのまわりの取り組みについての調査を通じて考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：序論・開発教育の歴史と課題 第 2 回：開発教育の内容・方法・カリキュラム 第 3 回：地域における開発教育の展開 第 4 回：MDGs から SDGs へ 第 5 回：さまざまな開発論 第 6 回：環境問題と ESD 第 7 回：国際協力 第 8 回：貧困と格差 第 9 回：持続可能な生産と消費 第 10 回：紛争と平和 第 11 回：災害と開発 第 12 回：子どもと若者 第 13 回：ジェンダー 第 14 回：人の移動・移民 第 15 回：これからの世界と私たち・まとめ 定期試験</p>			
スクーリングでの学修			
<p>テキスト</p> <p>田中治彦・三宅隆史・湯本浩之 (2016) 『SDGs と開発教育 持続可能な開発目標のための学び』学文社 978-4762026492</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>(1) 蟹江憲史 (2020) 『SDGs (持続可能な開発目標)』中公新書、978-4121026040 (2) 原貴太 (2021) 『あなたとSDGsをつなぐ「世界を正しく見る」習慣』KADOKAWA、978-4046055545</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート評価 (50%)、科目修得試験 (50%)</p>			